

入学オリエンテーション 学部長挨拶 (令和3年4月5日)

水産学部の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。116名の学生さんを新しい仲間として水産学部に迎えることができました。教職員一同、心より皆さんを歓迎します。

この一年、新型コロナウイルスが蔓延し、学校が休校になったり、部活動が中止されたりしたのではないかと思います。大学でもオープンキャンパスの中止が相次ぎ、志望校の情報がとりにくい中で、いろいろな不安を感じる日々を送りながら、受験勉強に取り組んできたのではないかと察します。そのような環境の変化の中で、皆さんは大学の入学を果たしました。ほんとうに素晴らしいことだと言えます。おめでとうございます。

さて、学部長からの挨拶としてはきわめて異例なことですが、最初に皆さんへのお願いをしなければなりません。それは、新型コロナ対策として、長崎大学が学生に要請する行動制限を必ず守ってほしいということです。

水産学部では、実験科目や2隻の練習船を用いた乗船実習など、多くの体を動かす授業がありますので、新型コロナ禍での実施にあたり、細心の注意を払う必要があります。昨年度は、在学生の先輩たちが大学からの行動制限の依頼を良く理解して、行動してくれたおかげで、昨年6月以降、水産系大学では唯一乗船実習のすべてのメニューを実施することができました。

昨年5月、長崎ではコスタアトランティカ号で新型コロナのクラスターが発生しましたが、長崎大学の感染症研究グループがこれの対応にあたり、一人も死者を出さずに封じ込めることができました。その研究グループが皆さんへ行動制限の通知を行っています。ぜひこれを信頼して、守っていただきたいと思います。

さて、大学に入学し、皆さんはもう一度、環境の変化を経験することになります。県外や九州の外から来た人にとっては、長崎の言葉を含めて、生活環境が大きく

変化することと思います。大学の学修環境も高校までとは大きく異なります。不安を感じる人も多いと思いますが、ぜひ不安を好奇心に変えていただいて、多くを学び、多くの人々、教員や友人との出会いを求めてほしいと思います。コロナ禍のために出会いの数が少なくなっているのは事実ですが、人生の意味を考え続けた偉大な先人が我々に遺してくれた名著と呼ばれる書物や映画や音楽などに接する機会を増やす時期ととらえることができるかもしれません。大学には高校までのような厳しい校則はありません。髪型も服装も自由ですが、社会の規範を守って、人に迷惑をかけないことを心がけてください。

大学では、全学教育で人間と社会、そして人間と自然についての幅広い知識と創造力を培います。水産学部の専門教育では、人間と海の関わりを学び、厳しい自然環境の中で海の多くの生き物がどうやって生活しているのか、多くのことを学びます。ぜひこれらを生かして適切な判断力や豊かな人間性をはぐくんでいただきたいと思います。

世界はデジタル社会や低炭素化社会に大きく舵をきりました。まさに変革の時代です。歴史を見れば変革の時代に活躍するのは必ず若い人々です。水産学部での学びは、将来社会人として生活するときに必ず役に立つと信じています。

最後に、私たち教職員一同、皆さんの学生生活をサポートするために、できる限りの支援をしたいと考えています。水産学部での学びを通し、皆さんの人生と未来を切り開く力を身につけて頂くことを祈念して、私からの挨拶と致します。

令和3年4月5日

水産学部長 萩原篤志